

個人質問

33人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

環境・暮らし

粗大ごみインターネット受付とふれあい収集事業

問 インターネット予約等、電話以外での受付方法も検討すべきでは。

答 家庭から排出される粗大ごみは、ファックスでも受け付けているが、平成23年5月1日からは、インターネット受付の導入を予定している。

また、同日から、高齢者、障がい者など収集時にあらかじめ家の外に出しておくことが困難な人に代わって、市職員等が敷地や家の中まで入って収集するふれあい収集事業も開始する。

利用者にわかりやすい市ホームページを

問 市ホームページの「よくある質問」コーナーの整理は、どのように行うのか。

答 平成23年2月に、市長をトップとし全局長が集まった会議で、大幅な充実に向けて、全庁的に検討指示を行ったところである。

23年度からは、子育て分野の情報発信強化を手始めに、市民の視点で質・量ともに充実した情報を提供する仕組みづくりに取り組む。

今後とも、アンケートやヒアリングなど、市民の声を受け止めて改善に努める。

木造住宅耐震改修工事費の補助

問 ①平成22年度の耐震診断・改修の実績は。②23年度限りとしている木造住宅耐震改修工事費の補助を24年度以降も継続す

る考えは。

答 ①木造住宅一般耐震診断19件、建築物耐震診断5件、木造住宅耐震改修2件である。

②23年度の工事費補助は、現行の30万円に、今回限りの国の緊急支援事業による30万円を上乗せし、上限を60万円とする。24年度以降に継続するかは、国や県の動向を注視したい。

地球温暖化対策の「見える化」

問 地球温暖化対策の「見える化」を目指した、積極的な取り組みを行うべきでは。

答 太陽光発電システムやLED照明、電気自動車などの住宅・事業所への導入支援とともに、市役所筋周辺でのエコ通り推進事業や建部町文化センターなどでのエコ庁舎事業を推進して「見える化」の拠点づくりを行いたい。

本市は地域全体でESDの取り組みを強化しており、「見える化」の拠点を環境先進都市・岡山のシンボルとし、生きたESD学習の場として活用し、広く国内外に情報発信したい。



太陽光発電システムなどを設置予定の建部町文化センター

米粉普及への取り組み

問 食料自給率向上の問題意識を持って米粉普及に取り組んでいるか。また、食育の中での米粉活用は。

答 本市の農業は、水田営農が中心であることから、米の消費拡大は重要な課題であり、パンやめん等の原料となる米粉の消費拡大は、食料自給率の向上に寄与すると認識している。

現在、学校や公民館等と連携し、地産地消など食育の推進に取り組んでおり、平成22年度は市内8カ所の公民館で米粉料理教室を開催している。23年度予算では、家庭での利用が増えるように、市民が利用できる小型製粉機の導入や米粉料理のレシピ作成、親子ふれあい米粉料理教室の開催等も計画している。

自転車TSマークの普及

問 市民や学校園への周知は。また、今後の普及に市が前向きに取り組んで。

答 交通安全教室において、小学校では高学年に、幼稚園・保育園では保護者に、制度の周知を図っている。



LED照明を一部設置している市役所筋

用語解説 ※6 救急告示病院

救急病院等を定める省令に基づき都道府県知事が告示する病院で、救急医療の知識や経験を有する医師が常時診療していることなどの要件を備えているもの

平成23年度に「自転車先進都市おかやま事業」に取り組むが、サイクルマナーアップ活動と合わせ、自転車の定期的な点検・整備を促進し、安全な利用と事故防止に寄与したい。

また、事故にあった際、被害者救済に役立つので、制度の一層の普及に向け、関係機関・



TSマーク制度

自転車を安全に利用してもらうための制度。自転車安全整備士が自転車を点検・整備して、道路交通法上の普通自転車として確認をしたときにマークが貼られる。このマークが貼られている自転車には傷害及び賠償責任保険が付加される。

団体等と連携し、さまざまな機会をとらえてPRしたい。

症への対応をさらに強化するため、認知症連携担当者1名を配置する。

病児病後児保育の現状

問 区ごとの定員、利用実績と予算は。

答 定員は、北区が2施設で16人、南区が1施設で6人、中区が1施設で6人。利用延べ人数実績は、平成15年度4,990人、20年度4,205人、21年度3,895人である。23年度は、22年度よりも1,280万円多い5,220万円の予算を組んでいるが、今後、希望があれば、補正予算で対応したい。

発達障がい児への継続的支援

問 発達障がい児の中学校卒業後の進路を把握し、追跡するシステムを考えては。

答 障がいのある子どもには、ライフステージに応じて切れ目のない支援を行うことが大切である。中学校での進路選択では、一人一人の希望や特性に配慮し、計画的に取り組み、卒業時の進路を把握している。

また、中学校卒業後の支援については、支援の切れ目が生じないように、平成23年度設置予定の発達障害者支援センター（仮称）を核として、教育と福祉の情報連携や行動連携がさらに深められるよう検討を進めている。

福祉・医療

産後うつ発見の取り組み

問 産後うつ発見のため、健診やこんにちは赤ちゃん事業での取り組みは。

答 出産届出書に質問票を入れて返却してもらい、その結果に応じて訪問等の支援を行っている。平成22年度は2月までに2,773名から返却があり、そのうち134名に訪問支援を行った。

また、乳児健診で育児が十分にできない状況が疑われる場合は、医療機関から連絡が入る。

こんにちは赤ちゃん事業では、乳児家庭を愛育委員等が全戸訪問し、不安や悩みを聞く中で、支援が必要な家庭には、継続的な訪問等も実施している。

不妊治療の助成拡大

問 体外受精、顕微授精の経済的負担を軽減するために、助成を拡大すべきでは。

答 不妊治療の助成では、これまでも所得制限の上限の緩和や、助成期間の延長、金額の増額をしてきた。

現在は、年度2回目までの助成であるが、平成23年度から、治

療開始の初年度については、3回目までの助成を行う予定にしている。

地域包括支援センターの充実

問 地域包括支援センターの役割及び人員体制は。

答 保健師や主任ケアマネジャー、社会福祉士等の専門職員が、専門性を相互に連携させながら積極的に地域に出向き、介護相談や虐待対応、介護予防ケアプランの作成、高齢者を地域で支える体制づくりなどに取り組んでいる。

一層の体制充実に向けて、在宅高齢者実態調査のための6名に加えて、平成23年度からは職員6名を増員する。また、認知



発達障害者支援センター（仮称）設置予定の勤労者福祉センター

まちづくり



整備が進む都市計画道路竹田升田線

竹田升田線の今後の整備

問 未着手区間である県道原藤原線から県道東岡山御津線までの延長約2.7km区間の幅員や線形を再度検討し、概略設計に取り組んでは。また、地元説明会等の進め方は。

答 本区間は、交差点部の拡幅など、幅員や線形の再検討の必要があるため、平成23年度に概略設計を行う。必要があれば都市計画の変更手続きを進めたい。

このうち、県道原藤原線から市道湯迫雄町線までの延長1.5km区間は、現在事業中の区間の整備完了後、引き続き取り組みたいと考えている。都市計画の変更や事業の実施に当たり、適切な時期に事業スケジュールや設計内容に関する地元説明会を開催するなど、意見を聞きながら整備を進めたい。

岡南線、平井神崎線の今後の整備

問 都市計画道路で、次の各区間の整備スケジュールは。

①岡南線における、県道岡山玉野線から百間川までの延長1.4km区間。

②平井神崎線における、山崎から海吉までの延長1.0km区間。

答 ①平成23年度に、岡南線の未整備区間全体の幅員や線形な

どを検討し、必要があれば都市計画の変更手続きをする。このような準備を整え、現在事業中の県道九幡東岡山停車場線が完了後、詳細設計等に着手したい。

②現在、用地買収を進めており、約6割の買収が終わった。地権者の理解と協力を得ながら、残る用地の早期買収に努めたい。

岡山操車場跡地における総合福祉ゾーン

問 リハビリセンターをつくるべきでは。

答 (仮称)岡山総合医療センターには、脳血管疾患などの急性期治療中の機能回復を行うリハビリ施設を整備する予定である。

J R北長瀬駅を中心とした総合福祉ゾーンにおいて、リハビリや健康増進を行う機能の導入も検討していく。

道路舗装の維持管理

問 道路舗装についても、壊れたら直すという対症療法的な維持管理から、ライフサイクルコストを考えた予防保全的な維持管理に転換すべきでは。

答 道路の中には、相当の年数が経過しているものも数多くあり、維持管理費の増大を懸念している。道路利用者の安全・安心に直結する舗装を常に良好な状態に保ち、ライフサイクルコストの縮減を考慮した計画的な維持管理を行うため、平成23年度から、最新の機器を活用した舗装の現状調査に着手する。

市域全体での太陽光発電の普及

問 メガソーラー発電の取り組みと太陽光発電の現状は。

答 一般的にメガソーラー発電とは、発電規模が大規模な1メガワット(1,000キロワット)以上の太陽光発電システムを意味している。

本市では、太陽光に恵まれた市域全体をメガソーラー発電所と位置付け、市民、事業者、行政が協働し、市域全体での太陽光発電の普及を目指す。

本市全体での太陽光発電出力規模は、住宅用を主体に、平成22年度末では約21メガワットと見込んでいる。23年度は、一般家庭、事業所、市有施設全体で新たに8メガワット以上の導入を目指したい。

備中高松駅自転車置き場の早急な整備を

問 J Rとの協議を進め、自転車置き場の早急な整備を行うべきでは。

答 備中高松駅は、岡山駅を除き、駅周辺での放置自転車台数が最も多く、交通の支障となっていることから、これまで駐輪場の整備に向けてJ Rと協議を重ねてきた。平成22年度中にも一部の工事に着手し、23年度のできるだけ早い時期での供用を目指したい。



備中高松駅前